

「コンゴ内戦解決への国際協力」

1 . 記事要約

機能しない政府の一番悲惨な例がコンゴだ。コンゴの内戦ではこの 5 年の間に最低でも 330 万人の死者が出ていると予測されている。植民地時代の独裁支配以来まともな政府が立っていないところに、隣国ルワンダの内戦で敗れたフツ族の殺戮者たちが流れ込み、ザイール時代の独裁者モブツによる政権崩壊と同時に、コンゴの豊富な天然資源を求めて多くの国があらゆる勢力を応援したことで内戦は激化した。多数の軍はそれぞれ天然資源による財源、戦闘人員が共に豊富にあり、それが内戦を長引かせている。今後国際社会は 3 つの策をとるべきだ： 国連が軍事介入をする、内戦の原因となっている鉱物を市場から排除する、兵器の流入を止める。

2 . 論点

最近イスラエルで和平交渉が行われているが、実はコンゴの内戦でも昨年 12 月に和平案が結ばれている。だが実態は「和平」と呼べる状態からはまだ程遠いようだ。アメリカの利害があまりからまないこの地域で、果たして国際社会の協力でコンゴの内戦を解決へと導くことができるのかどうかを考えてみる。

3 . 分析

3 - 1 コンゴにおける内戦の経緯

1908. ベルギー領、君主レオポルド 世による独裁政治

1960. ベルギーより独立（コンゴ共和国）、コンゴ動乱

1965.11 モブツ政権成立（クーデター）

1967. コンゴ民主共和国に改称

1971. ザイール化政策、（国名もザイールに）¹

- ・ モブツは対外的には現実外交を展開して政権の延命には努めた。
- ・ 国内に関しては政治の腐敗、経済の崩壊にも関わらず、権威主義体制の強化、大統領一族と取巻きの利益を得ることのみに励んだ。
- ・ 2 度の大規模なクーデターもベルギーなどの外国政府軍の派遣で乗り切った。

¹ 片山, 2000

1994. ルワンダの内戦、フツ族はザイールに亡命
・ルワンダの人口の9割を占めたフツ族が、わずか100日間の間に残りの1割のツチ族とそれを支援するフツ族約80万人を虐殺。亡命していたツチ族が隣国のウガンダから攻め込み、フツ族をコンゴ民主共和国(当時ザイール)へと押し出した。²
1997. モブツ政権崩壊、ルワンダとウガンダの支援を受けたローラン・カビラ政権誕生(国名はコンゴ民主共和国に)
・ザイールに亡命したフツ族が再び攻め込んでくる事を恐れたルワンダ政府は、モブツがフツ族をかくまったため、カビラを議長とする「コンゴ・ザイール解放民主勢力連合(ADFL)」をウガンダと共に支援し、モブツ政権の崩壊を謀った。³
- 1998.08 ルワンダ、ウガンダ、ブルンジの反カビラ政権派(MLC, RCD)の支援
v. ジンバブエ、アンゴラ、ナミビア他2国のカビラ政権支援
・一旦革命が成功するとカビラはフツ族を支援したため、ルワンダ他2国は新たな革命勢力を支援してカビラ政権の崩壊を謀った。ジンバブエなどはそれぞれコンゴの天然資源に興味があるなどの理由でカビラ政権を支援。
- 2001.01 ローラン・カビラ暗殺、息子のジョセフが後任
・和平策支持、革命はと妥協、国連と協力。
- 2002.12 革命派との譲歩による和平案の合意

3 - 2 現在の戦況・問題

1. 和平案の合意、実施後も紛争継続⁴
 - ・ 東部イツリ州の州都ブニアでは、ルワンダの支持を受けたヘマ族とウガンダの支持を受けたレンドゥ族との間の紛争が激しく、街では2週間辺り約800人の死者を出している。
 - ・ ルワンダの「Hutu Interehamwe」を筆頭とした非政府軍の説得が困難。
2. 経済的な滞在要因⁵
 - ・ コンゴの天然資源の豊富さ：工業用ダイヤモンド、銅、コバルト、金、コールタン(ICなどに使われる鉱物)、木材、石油など

4 . 国連による介入

4 - 1 国連主導の介入

- ・ アメリカは不参加(利害が絡まない所に兵士の命をリスクできない)⁶

² The Economist, July 4, 2002

³ The Economist, 同

⁴ The Guardian, May 27, 2003

⁵ The Economist, July 4, 2002

- ・ 和平合意後、4,000 人の PKF
- ・ カナダ、フランス、南アフリカ、イギリスが参加に前向き
- ・ 700 人のウルグアイ人による監視部隊の後続として、1,200 人規模の部隊をブニアへ送り込む（フランスが半分を占める） 8月末まで 次は 1,500 人のバングラデッシュ人部隊
- ・ 他の地域を守るのに 3,000 人 少ない
- ・ ベルギーは軍の医療部隊を送り込む、ドイツは戦略を考える 戦闘には消極的
- ・ 南アフリカは軍隊のブニアまでの輸送費が出れば軍隊投入
- ・ パキスタン、ナイジェリア、ブラジル、スウェーデンも参加表明

4 - 2 EU 主導の介入⁷

- ・ UN の要望により EU 主導の軍投入
- ・ フランス人司令官による
- ・ 非戦闘員のみ、主に戦略を考える
- ・ 約 1,400 人規模でブニアの空港を守る（フランス人が多数、イギリス 100 人未満）
- ・ EU 以外の国も参加（南アフリカ、セネガル、カナダ、ブラジル、エチオピア、パキスタンなど）、ドイツは支援はするものの軍隊は送らない模様

5 . 今後の課題

- ・ 経済の強さと内戦の起こりやすさには関連性が見られるものの⁸、長期に渡る紛争で経済は崩壊、国内の実態がつかめない⁹
- ・ 軍隊の投入は消極的な国が多く、広域に渡って濃密な森林に覆われた国土では、鎮圧後の政権維持が困難¹⁰
- ・ とりあえず出来ることとしては、紛争のもととなる軍が軍資金にしているコンゴの天然資源の国際市場での取引を禁止する¹¹

6 . 私見

コンゴでは、ベルギーの植民地時代の君主レオポルド 世による私服を肥やすための過酷な強制労働に始まり、独立後の大統領モブツによる自らの権力維持・増大のための長期に渡る独裁を経て、酒飲みと評判が悪いローラン・カビラの独裁、と悪政ばかりが続いた。そのため、世界有数のダイヤモンド、金、銅、コールタンなどの産地であるにも関わらず、経済は下降する一方だった。今の大統領のジョセフ・カビラは、和平案への合意など前向きな行

⁶ 発表記事

⁷ The Guardian, May 31, 2003, June 11, 2003

⁸ The Economist, May 24, 2003

⁹ The Economist, July 4, 2002

¹⁰ The Economist, 同

¹¹ The Economist, May 24, 2003, 発表記事

動が見られるが、彼を取巻く政府の人々は多くが彼の父の代から継続している人であるため、やはり彼一人の行動には期待は出来ない。そこで、国際社会の大国の利害をからめて今後のコンゴを建て直していくようなことが何か出来ないかと考えてこのテーマを選んだのだが、今のところは目先の内戦や、コンゴ国内に残るフツ族の軍隊の鎮圧といったことしかできないのではないかという結論にいたってしまった。国内だけではもはや解決できないこの問題を、国際的に解決に導く手はないものだろうか。

7 . 参考文献

- ・片山正人 『現代アフリカの悲劇 ケニア・マウマウ団からザイール崩壊まで』
(株式会社叢文社, 2000年)
- ・平成十三年度国際協力事業団準客員研究員報告書
http://www.jica.go.jp/activities/report/kyakuin/pdf/200203_11.pdf
- ・外務省 HP <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/congomin/data.html>
- ・CNN.com, "DR Congo peace deal signed," December 17, 2002
- ・People's Daily Online, "Final Congolese Peace Deal Signed in S. Africa," April 3, 2003
- ・The Guardian, "Multinationals in scramble for Congo's wealth," October 22, 2002
- ・The Guardian, "Fighting in Congo," May 27, 2003
- ・The Guardian, "UN sends troops to stop Congo massacres," May 31, 2003
- ・The Guardian, "Britain will send up to 100 troops to Congo," June 11, 2003
- ・The Guardian, "Europe tests its military wings," June 13, 2003
- ・The Guardian, Comment: "Intervention in Congo will not help," June 17, 2003
- ・The Economist, "A report from Congo: Africa's great war," July 4, 2002
- ・The Economist, "Peace, they say, but the killing goes on," March 29, 2003
- ・The Economist, "The poor man's curse," May 24, 2003
- ・The Economist, "The global menace of local strife," May 24, 2003
- ・The Associated Press, "French Deployment Continues in Congo," June 10, 2003
- ・UN Press Release SC/7772, "SECURITY COUNCIL AUTHORIZES INTERIM FORCE IN BUNIA, DEMOCRATIC REPUBLIC OF CONGO, UNTIL 1 SEPTEMBER," May 3, 2003
- ・UN Press Release SC/7796, "SECURITY COUNCIL HEARS REPORT ON MISSION TO CENTRAL AFRICA SUPPORTING PEACE PROCESSES IN BURUNDI, DEMOCRATIC REPUBLIC OF CONGO," June 18, 2003